

107 タイラギ(リシケタイラギ) (ハボウキ科)

Atrina lischkeana

兵庫県ランク:C

環境省ランク:NT

種の概要

房総半島以南に分布する。内湾の干潟から潮下帯の砂泥底、粗砂底に殻頂を真下にして突き刺さったように生息し、地表面からわずかししか殻を出さない。殻長250mmを超える大型種。殻は薄質、膨らみは弱い。殻形は殻頂の方が狭くなった三角形状で、殻表には多数の弱い放射肋があり、肋上に鱗片状突起が密集する。従来“タイラギの有鱗型”と呼ばれていた種。殻表面の滑らかなズベタイラギに似るが、本種は殻表の鱗片状突起をもつことで区別される。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	△			○

県内分布

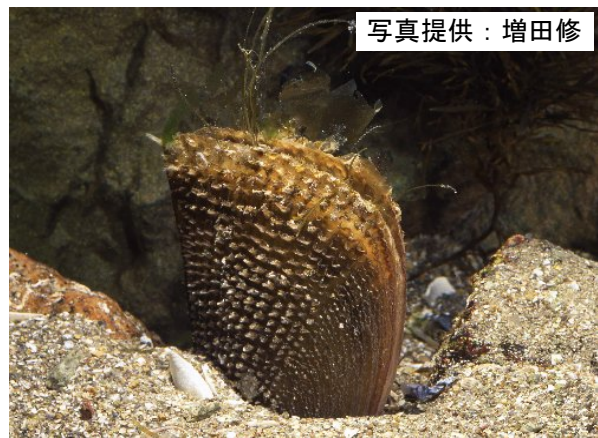
姫路市、たつの市、洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。淡路島中部の内湾に面した小礫混じりの砂泥干潟で、砂泥底に殻頂を下にして突き刺さった生貝1個体を確認したが、その後再発見されていない。播磨西部では、マテガイ(貝類要注目種)の生息する細砂底の前浜干潟で若い個体が確認されるが、多くは新鮮な死貝であり、生貝の確認個体数は少なく、主に潮通しの良い内湾の潮下帯に生息している。

保護上の留意点

潮通しのよいアマモ場や礫混じりの細砂底の内湾や前浜干潟は、護岸工事や離岸堤、波止の建設などで容易に消失するので、改修に当たっては現状維持に努め、十分に配慮すること。



写真提供：増田修



写真提供：川淵千尋

【執筆者】 川淵千尋